



## ようやく私たちの主張が理解される時代がきた

**米田** 総裁当選おめでとうござい  
ます。尖閣、竹島問題をはじめと  
して、政治も経済もいよいよ混乱  
を深めています。こういう時だか  
らこそ、自民党の総裁に安倍さん  
が求められたのだと考えています。  
私たちの読者は経営者、国と地方

の議員と官僚、日本の行く末を我  
がことのように案じている愛国の  
国民です。今日は次期総理に一番近  
い安倍自民党総裁から、そうした日  
本を憂い支えている人々へのメッ  
セージをお伺いしたいと思います。  
私と安倍先生とは衆議院で中選

挙区制度の最期の当選組で同期生  
です。私の記憶では一緒に外交・国  
防関係の会合に出て、「戦後レジ  
ムを脱却した防衛体制の強化が必  
要だ。」と歩調を合わせて発言した  
記憶がありますが、当時の大先輩  
たちの間の中では「おい、今度な  
んか変なのが二人当選して来たぞ」  
と聊か物議をかもしましたね。

**米田** 自民党の部会もそんなレベ  
ルでした（笑）。しかしながら、近  
隣諸国の一連の理不尽な行動が続  
く中で、ようやく我々の主張の正  
しさが明らかになりました。  
普通の生活者が、いまほど戦後  
の日本の有り様がおかしかったな  
と痛感している時期はないと思い  
ます。韓国大統領の天皇陛下に対  
する無礼かつ理不尽な発言もお

**安倍** 平成5年ね。

# NAVI 対談

聞き手／公益社団法人 国際経済交流協会 代表理事 米田 建三

「未来への挑戦をやり遂げよう  
日本は今、新しい時代の扉を  
大きく開くときだ」

衆議院議員 自由民主党総裁

安倍 晋三





は河野談話に反するのでは？」政府の認識と真つ向からぶつかりますね。」と言った時、彼はこう反論しました。

《河野談話は閣議決定していません。安倍政権時代に質問趣意書に対する内閣の回答が出されていますが、そこには強制性を示す証拠、証言は見出せなかったとあります。これは閣議決定しているのですから、政府見解です。私の発言は政府見解と違いますか。》と木っ端微塵に論破しています。橋下市長は答弁を全て調べた上で反論している。

**米田** たいしたものだ。言い方は悪いが、売春施設を軍がその駐屯する近所に造ることを認めていたのは、残念ながら世界の長い間のも

更には学習指導要領も書き換えましたが、改めてもう一度見直さなくてはなりません。

残念ながら、民主党政権ができてから、この精神に則って教科書が検定され、採択されているかといえ、そうなっています。安倍政権の時の教科書採択制度についての宿題事項は責任の所在を定める事なんです。常勤でない教育委員会が一番大きな権限と重い責任を持つ今の在り方が正しいでしょうか。事務局と教育長が権限を持っていて、事務局が全部段取りを整え、教育委員はその上に乗っかっているに過ぎないのが実態です。形骸化した教育委員会制度に代えて選挙によって選ばれた首長が最終的に権限と責任を持つべきではないか、しかし今の仕組みのままではそれができない。大阪の橋下市長たちが投げかけたのは、こういうことなのです。

責任が非常に不明瞭になっていることの結果として、例えばイジメによる自殺の責任を誰が負うか、わからなくなっています。自民党では義家さんたちがそうした趣旨

慣例です。アメリカも我が国に、公然と要求していましたね。そのことと、人さらいみたいを集めた事とは全く別のことです。そういうことはソ連が満州や中・東欧でやったことでしょうか。

**安倍** 問題の本質は、「軍隊が乗り込んで行って人殺いの様に人を連れて行って、売春させていた」のか、という事なんです。

**米田** 戦地に赴いた男子に代って、女子が工場などに勤労働員された女子挺身隊を慰安婦とすりかえた話の一部メディアで広げられましたね。

**安倍** そうそう。もしやっていたら、確かに恥ずかしいことですよ。でも違う。真実はわかっています。何故かと言えば、「このカラスは白い」と新聞もテレビもみんな一緒になって報道すれば、かつては白いとなっていました。ところが今は「いや、黒いよ」という証拠となる写真がインターネットに出てしまいます。これが以前との大きな違いですね。

次に自民党が政権を取り返した時には、私は日本が、新しい時代

の法案をつくりました。つまり選挙を通じて、教育をこうするんだと約束しよう。

**米田** ちょうど集団的自衛権についての内閣法制局見解が政府を拘束しているのと同様で、無責任な聖域になってしまっていますね。有権者に選ばれた政治家の決断が最終決定であるべきだとするのが合理的ですね。

**安倍** 発達段階に応じた教育ということも強調しておきたいことです。初等教育は日本人としての基本的な姿を徹底的に教え込んで行く。だから「郷土愛と愛国心」を根底におきます。逆に高等教育は国際化して行くべきなのです。

**米田** なるほど。初等教育は、まずはアイデンティティというものをしっかり認識させる。そしてその基礎の上で、国際人にしていく。

**安倍** 社会人になったら世界で勝負していく人材であることが求められています。ですから高等教育は国際化して行くんです。外国から留学生も来るし、教授たちも国際化しなければならぬ。日本の教授の皆さんもアカデミー世界の

に向かうためにも、このくびきから解放されるべきと考えています。こうした談話を新しい談話によって超克していくべき時を迎えたのだと思います。

**新政権は日本をくびきから開放する新しい談話を。歴史の嘘への反論、領有権主張は堂々と。**

**米田** ぜひそうしてもらいたいです。さて外交と安全保障政策と並んで大事なものは教育です。戦後半世紀以上の間、どこの国の国民かわからないような教育をしてきたわけでしょう。領土問題なんて全然ないかのよう。

しかし韓国では竹島は自国領土と子供のころから間違ったことを教え込んでいます。こういう嘘を教える教育は間違いですが、国家の主権や領土の大切さを教えることは重要です。これは戦後教育が否定してきたものです。

**安倍** そのために教育基本法を安倍政権のとき変えたんです。全面的な書き換えをしました。一番のポイントは教育の目標をキチンと

中では国際競争してください、いや

**初等教育はアイデンティティを固め  
高等教育は国際化を。**

**米田** 国防、教育と話が進んできましたが、次に経済についてご意見を聞かせください。

**安倍** 強い国家となる上においても、強い経済が絶対的に必要です。中国が毎年10%以上国防費を増やしている。日本は残念ながら減らしている。これは財政再建が理由なのですが、もう限界にきていますね。次は国防費を増やすべきです。

昨年、日本は名目GDPで中国に抜かれた。中国は人口規模が大きく人口構成が若いからしょうがないと諦めムードでしたが、果たしてそうでしょうか。

日本経済の一番の問題はデフレです。

毎年毎年モノの値段が下がっていき、モノの値段以上に給料が下がっていく、経済は縮小していく。そして円高です。円高はデフレを助長します。もし、この20年間

書き込んだ事です。教育の目標の筆頭は「道徳心を培う」とこと、「公共の精神を涵養していくこと」、そして「文化と伝統を重んじる」と書きました。無国籍の根無し草にならないよう日本人としてのアイデンティティをしっかりと植え付けつけていくことをはっきり書きました。

子供たちに「君たちの住んでいる街を良くしたいと思いませんか？ そう思うのであれば、そのために君も貢献しなければならぬんだ。」ということをお話していく。つまり「権利と自由には義務と責任が伴なう」ことを教えるようにしました。また第一次的な教育の責任が家族にあると規定しました。

しなければならぬと思います。

3%物価が上がって、1%経済が成長していたらどうだったか。やる実力はあったんです。名目経済成長率4%であれば、日本のGDPは名目1000兆円になりました。中国の倍です。税金も倍になっていました。つまりやるべき金融政策をやったことなかった結果がGDPの日中逆転なのです。

06 Vol.6 2012 Autumn World Navi



財政は相当の制約がありますが、世界各国は金融政策で通貨切り下げ競争に躍り出たんです。アメリカ、EU、イギリス、韓国も自国通貨を次々刷って、マネタリーベースを厚くして自国経済を支え、かつ自国通貨を安くして、輸出競争力をつけていますね。通貨の増加量はアメリカはこの10年間で4.5倍ぐらい、EUやイギリスや韓国は3倍、日本は1.2〜1.5倍です。当然円高になる。そしてデフレ。

この克服は金融政策の出番です。日本銀行に思い切った金融緩和をやらせる。しかし、それだけでは直ちにデフレ解消になりません。企業はまだまだ投資に慎重でしょう。ですから、同時に公共事業、政府の財政出動の出番なのです。必要な国債は日本銀行に買ってもらう。

投資先は、未来。まずは来るべき、来るかも知れない、大災害に対する国の守りの強化です。一時的に財政赤字は増えますが、しかしデフレから脱却できなければ、絶対に財政再建できない、名目経済は成長しないんですから。ですから

様々な課題があります。地球温暖化もそうですね。北極海の氷も小さくなってきています。そうしたなか省エネルギーについて、日本は世界一の技術を持っています。エネルギー単位当たりでは、日本は例えば油一滴でロシアと比較して8倍の生産性を持っているんです。私たち日本のこうした技術は、世界で求められています。加えて日本は原発の過酷な事故を経験しました。この不幸は、私たちに世界で最も安全な原子力発電について深い知見を与えました。ちようど公害の辛い経験が厳しい環境基準を生み出したように。同時に再生可能エネルギーについても日本は大きく進みました。あるいは日本列島の周辺にあるメタンハイドレートなど新たなエネルギーもあります。将来的には核融合もあります。こうした新たな分野において日本はトップランナーであり、日本がフロンティアとなることは十分出来ると思います。

【未来への挑戦で新しい時代を拓こう】  
今年の8月25日、1969年に



まず名目経済を成長させることに集中する。2〜3%の緩やかな物価の上昇と、実体経済の1%上昇を実現させれば、間違いなく税収は増えます。そうした状況を前提としてはじめて消費税を上げていく。これが理想的な姿だろうと思います。

【民主党方式の「給付ありき」から富の創造へ転換しよう】

米田 野田政権は、消費税を上げるだけで景気の上昇について考えが足りないということですね。

安倍 民主党の決定的な問題点というのは「まず給付ありき」。配る

人間として初めて月面着陸したアームストロング船長が亡くなりました。アポロ計画は1961年、ケネディ大統領が就任した時に発表した計画でした。70年代の初頭にアメリカ人を月に送る、と。でもあの段階ではそんな技術はなかったんですよ。ところが、情熱と能力とそれをやり続ける意志と、国家資金を投入して実現した。正しい政治判断があれば、画期的イノベーションができることを証明したんです。

このプロジェクトは世界を変え



ことしか考えていないことです。配る原資、果実をどうやって生み出していくのかということが判らない。いい例がスーパーコンピューター。「二番ではいけないか」と言いましたね。じつは安倍政権の時、神戸に世界一の計算速度を持つスーパーコンピューターを造る「京プロジェクト」をやりました。それが実を結んで、民主党の妨害にもかかわらず世界一になりました。このスパコンを使って何をやっているか。例えばパーキンソン病やアルツハイマー、うつ病など難しい病気の新薬開発に使われているんです。このスーパーコンピューターを使うと治験の期間もものすごく短くなります。その結果新薬を世界で一番最初に開発できれば、特許を取れる。つまり私たちは健康を回復するだけでなく「知財」によって何兆円という富を生みだせるのです。そうした富があつてこそ社会福祉も次世代の育成も国防の強化も実現できます。

つまり成長のためのイノベーションに国家支援を投入していくというところが、今求められている。また、月に飛んでいく軌道計算をするために、開発されたといってもいい。そしてここを発端としてインターネット、パソコンからフェイスブックなどのソーシャルメディアまで、どんどん新しい世界が広がっていった。アメリカはこの分野で圧倒的に強いですね。生み出された富は何十兆円か、いや何百兆円かもしれない。つまり宇宙というフロンティアへの挑戦によって、彼らは新しい富を生み出したばかりか人類の未来をも拡げたんです。

私たちも未来への挑戦を続けなければいけないし、私たちにはそれができるのです。日本は夕暮れではありません。いま新しい夜明けのとはぐちにあたっているのです。米田 次の総選挙を経て日本は大きく変わるだろうし、変わらなくてはいけないと思います。安倍先生には、その中心で活躍いただくこと期待しています。これは私一人の期待であるだけでなく、本紙読者の等しく願うところであると確信します。

のです。

一時的に借財が増えても、デフレを脱却し、経済を成長させれば税収が増えていきます。政府支出に続いて民間の投資が出てくれば、公共投資を抑えていけば良いだけの話なんです。

安倍政権の時に、プライマリバランスは最も均衡に近づきました。2010年でマイナス31.8兆円ですが、安倍政権下の2006年はマイナス12.5兆円、2007年はマイナス8.7兆円です。

米田 なるほど。こうした政策論に加えて、もうひとつ大事なことがあると思います。それは高らかに明るく大きな国民的な国家目標を政治が打ち出すことです。よく色々な方々とお話しするんですが、例えば日本は島国だけれども、排他的経済水域を含めると世界で…

安倍 6番目です。米田 日本人は文字通り自虐的になつていて、こうした国土の広さや自分たちのもっているポテンシャルについて、知らなすぎるのではないのでしょうか。安倍 そうです。世界が共有する

06 対談者 Profile



聞き手  
公益社団法人 国際経済交流協会  
代表理事  
米田 建三  
ヨネダ ケンゾウ  
1947年 長野県生まれ  
県立松本深志高校卒業、横浜市立大学商学部経済学科卒業後、出版社勤務。  
1987年、横浜市議員に当選し、1993年に衆議院議員に初当選。以降、3期連続当選。北海道開発総括事務次官、防衛庁政務官などを歴任し、小泉内閣では、内閣府副大臣を務めた。帝京平成大学教授を歴任後、2010年5月に社団法人 国際経済交流協会 代表理事に就任。TV・雑誌等メディアでも活躍している。



衆議院議員 自由民主党総裁  
安倍晋三  
アベ シンゾウ  
1954年 東京都生まれ。  
成蹊大学法学部政治学科卒業後、株式会社神戸製鋼所入社。  
外務大臣秘書官を経て、1993年 衆議院議員に初当選。  
以降、6期連続当選。衆議院の厚生委員会理事、安全保障委員会理事、沖縄北方に関する特別委員会筆頭理事、内閣官房副長官、内閣官房長官、自民党社会部会長、同幹事長などを経て、2006年第90代内閣総理大臣に就任。2012年9月自由民主党総裁に選出される。